

【両院議員総会】鳩山由紀夫代表、辞任挨拶

2010年6月2日

お集まりのみなさん、ありがとうございます。そして、国民のみなさん、本当にありがとうございました。国民のみなさんの昨年の暑い夏の戦い、その結果、日本の政治の歴史は大きく変わりました。「国民のみなさんの判断は、決して間違っていなかった」、私は今でもそう確信しています。こんなに若い、すばらしい国会議員がすくすくと育ち、国会の中で活動を始めてくれています。それも国民のみなさんの判断のおかげです。

「政権交代によって、国民のみなさんのお暮らしが必ず良くなる」、その確信のもとでみなさん方がお選びいただき、私は総理大臣として、今日までその職を行ってまいりました。「みなさん方と協力をして、日本の歴史を変えよう。官僚任せの政治じゃない。政治主導、国民のみなさんが主役になる政治を作ろう」、そのように思いながら今日まで頑張ってきたつもりでございます。

私は今日お集まりの国会議員のみなさんと一緒に、国民のための予算を成立させることができた、そのことを誇りに思っています。ご案内の通り、子ども手当もスタートしました。高校の（授業料）無償化も始まっています。「子どもに優しい、未来に魅力のある日本に変えていこう。その私たちの判断は決して間違っていない」、そう確信をしています。

産業を活性化させないといけない。特に第1次産業が厳しい。農業を一生懸命やっておられる方々の戸別所得補償制度、お米からではありませんが、スタートさせていくこともできています。「そのことによって第1次産業が、さらに第2次産業、第3次産業と合わせて、第6次産業として大いに再生される日も近い」、私はそのようにも確信しています。

さまざまな変化が国民のお暮らしの中に起きています。水俣病もそうです。さらには医療崩壊が始まっている地域の医療を何とかしなきゃいけない。厳しい予算の中で医療費をわずかですが増やすことができたのも、国民のみなさんの意思だと私はそのように思っています。これから、もっともっと人の命を大切にする政治を進めていかなければなりません。

ただ、残念なことに、そのような私たち政権与党のしっかりとした仕事が、必ずしも国民のみなさんの心に映っていません。国民のみなさんが徐々に徐々に聞く耳を持たなくなってきました。そのことは残念でなりませんし、「まさにそれは私の不徳のいたすところ」、そのように思っています。

その原因、2つだけ申し上げます。やはりその1つは、普天間の問題でありましょう。沖縄のみなさんにも、徳之島のみなさんにもご迷惑をおかけしています。ただ、私は「本

当に沖縄の外に米軍の基地をできる限り移すために、努力をしないとイケない。今までのように沖縄の中に基地を求めることが当たり前じゃないだろう」、その思いで半年間、努力してきましたが、結果として県外にはなかなか届きませんでした。

いや、これからも県外にできる限り、彼らの仕事を外に移すように努力をしていくことは言うまでもありませんが、一方で、北朝鮮が韓国の哨戒艇を魚雷で沈没させるという事案も起きています。北東アジアは決して安全・安心が確保されている状況ではありません。「その中で日米が信頼関係を保つということが、日本だけではなく東アジアの平和と安定のために不可欠なんだ」、その思いのもとで残念ながら沖縄にご負担をお願いせざるをえなくなりました。

そのことで沖縄のみなさま方にもご迷惑をおかけしています。そして特に、社民党さんに政権離脱という厳しい思いをお与えしてしまったことを残念でなりません。ただ、みなさん、私もこれからも社民党さんとはさまざま、国民新党さんとも共にではありませんが、一緒に今まで仕事をさせていただいてきた。これからもできる限りの協力をお願いを申し上げてまいりたい。

さらに、沖縄のみなさん方にもこれからもできる限り、県外に米軍の基地というものを少しずつでも移すことができるように、新しい政権としては努力を重ねていくことは何より大切だと思っています。「社民党より日米を重視した。けしからん」、その気持ちも分からないではありません。ただ、「社民党さんとも協力関係を模索していきながら、今ここはやはり、日米の信頼関係を何としても維持させていかなければならない」という悲痛の思い。ぜひ、みなさんにもご理解願いたいと思っています。

私はつまるところ、日本の平和、日本人自身で作り上げていく時を、いつかは求めなければならないと思っています。米国に依存し続ける安全保障、これから 50 年、100 年続けていいとは思いません。そこのもぜひ、みなさんご理解いただいて、だから鳩山が「何としても、少しでも県外に」と思ってきたその思い、ご理解願えればと思っています。「その中に私は今回の普天間の本質が宿っている」、そのように思っています。

いつか、私の時代は無理ですが、あなた方の時代に日本の平和をもっと日本人自身でしっかりと見つけ上げていくことができるような、そんな環境を作ること。現在の日米の同盟の重要性は言うまでもありませんが、一方でそのことも模索していただきたい。私はその確信の中で、しかし、社民党さんを政権離脱という大変厳しい道に追い込んでしまった。その責任はとらなければならない。そのように感じています。

いま 1 つはやはり、政治とカネの問題でありました。そもそも私が自民党を飛び出して、さきがけ、さらには民主党を作り上げてきましたのも、「自民党政治ではダメだ。もっとお金にクリーンな政権を作らなければ、国民のみなさん、政権に対して決して好意を持ってくれない。何としてもクリーンな政治を取り戻そうではないか」、その思いでございました。

それが結果として、自分自身が政治資金規正法違反の元秘書を抱えていたなどということが、私自身、まったく想像だにしておりませんでした。そして、そのことが、今日ご来会の議員のみなさま方に大変なご迷惑をおかけしてしまったこと。本当に申しわけなく、「何でクリーンであるはずの民主党の、しかも代表がこんな事件に巻き込まれるのか」と、みなさま方もさぞご苦労され、お怒りになったことだと思います。私はそのような政治とカネに決別をさせる民主党を取り戻したいと思っています。みなさんいかがでしょうか。

そのことで私自身もこの職を引かせていただくことになりますが、合わせてこの問題は小沢幹事長にも政治資金規正法の議論があったことも、みなさま方、周知のことです。先般、2度ほど、幹事長ともご相談を申し上げながら、「私も引きます。しかし、幹事長も恐縮ですが、幹事長の職を引いていただきたい。そのことによって新しい民主党、よりクリーンな民主党を作り上げることができる」、そのように申し上げました。幹事長も「分かった」と、そのように申されたのでございます。

決して受動的ということではございません。お互いにその責めを果たさなければならぬ。重ねて申し上げたいと思いますが、小林千代美議員にもその責めをぜひ負っていただきたい。誠にこの高い壇上から申し上げるのも恐縮ではありますが、私たち民主党、再生させていくために、とことんクリーンな民主党に戻そうじゃありませんか、みなさん。そのためのご協力をよろしくお願いいたします。

必ず、そうなれば国民のみなさんが新たな民主党に対して聞く耳を持っていただくようになる。そのように確信いたしています。私たちの声も国民のみなさんに届くでしょうし、国民のみなさんの声も私たちにストンと通る新しい政権に生まれ変わると確信しています。

みなさん、私はしばしば「宇宙人だ」と言われています。それは私なりに勝手に解釈すれば、今の日本の姿ではなく、5年、10年、20年、何か先の姿を国民の皆さんに常に申し上げているから、「何を言っているか分からんよ」と、そのように国民のみなさんにあるいは映っているのではないかと、そのようにも思います。

例えば地域主権、原口大臣が先頭を切って走ってくれています。もともと、国が上で地域が下にあるなんて社会はおかしいのです。むしろ地域の方が主役になる日本にしていかなければならない。それがどう考えても国会議員や国の官僚がいばっていて、「くれてやるからありがたく思え」という中央集権の世の中、まだ変わっていませんでした。そこに少なくとも風穴が空いた。かなり大きな変化が今できつつある。

これからさらに一括交付金※など、強く実現を図っていけば、日本の政治は根底から変わります。地域のみなさんが思い通りの地域を作ることができる、そんな世の中に変えていけると思います。今すぐなかなか分からないかもしれませんが、しかし、5年、10年経てば必ず、国民のみなさん、「ああ、鳩山が言っていること、こういうことだったのか」、分かっていただけの時が来ると確信しています。

新しい公共もそうです。「官が独占している今までの仕事を、できる限り公を開く」ということをやろうじゃありませんか。みなさん方が主役になって、本当に国民が主役になる、そういう政治を、社会を作り上げることができる。まだ、なかなか「新しい公共という言葉自体が、なじみが薄くてよく分かん」、そう思われているかもしれません。ぜひ今日、お集まりの議員のみなさん、この思いを、これは正しいんだ。官僚の独占した社会ではなく、できるだけ民が、国民のみなさんができることは全部やりおおせるような社会に変えていく、そのお力を貸していただきたいと思います。

東アジアの共同体の話もそうです。今すぐという話ではありません。でも、必ずこの時代が来るんです。おかげさまで3日ほど前、濟州島に行って、韓国の李明博大統領、中国の温家宝総理と、かなりとことん話し合っただけです。東アジア、われわれは1つだ。壁に「We are the one、われわれは1つである」。その標語が掲げられていました。そういう時代を作ろうじゃありませんか。

国境を越えて、お互いに国境というものを感じなくなるような、そんな世の中を作り上げていく。そこに初めて、新たな日本というものを取り戻すことができる。私はそのように思っています。国を開くこと。そのことの先に未来を開くことができる。私はそう確信しています。ぜひ、新しい民主党、新しい政権をみなさま方のお力によって作りいただきたい。その時に今、鳩山が申し出て、「どうも先の話だな」と思っていたことが、必ずみなさんの連携の中で、「よし分かった」と理解していただける、国民のみなさんのお気持ちになっていけると私はそう確信しています。

お話が長くなりました。私は濟州島に行って、1羽のヒヨドリが濟州島のホテルのテラスに飛んできました。「そのヒヨドリはわが家から飛んできたヒヨドリかな」と、姿形が同じだからそのように勝手に解釈をして、そうか、この鳥も「早く、もうそろそろ自宅に戻ってこいよ」、そのことを招いているようにも感じたところです。

雨の日には雨の中を、風の日には風の中を、自然に歩けるような、苦しい時には雨天の友。お互いにそのことを理解し合いながら、しかし、その先に国民のみなさんの未来というものをしっかり見つめ合いながら、手を携えてこの国難とも言える時に、ぜひみなさん、耐えながら、そして国民との対話の中で、新しい時代をつかみ取っていかうではありませんか。今日はそのことを、みなさま方をお願いを申し上げながら、大変ふつつかな私でございましたけれども、今日まで8カ月あまり、みなさんとともに、その先頭に立って歩ませていただいたことに心から感謝を申し上げながら、私からの国民のみなさん、特にお集まりのみなさま方へのメッセージといたします。ご静聴ありがとうございました。